



# 年頭のごあいさつ

佐世保市長 朝長 則男

## まちづくりの新しい変化

明けましておめでとうございます。輝かしい新年をご家族おそろいで迎えになりましたこととお喜び申し上げます。

さて、昨年四月の市長選挙において市民の皆さまのご支持をいただき、四月三十日から第二十八代佐世保市長に就任いたしました。新米の市長ではありますが、この八カ月間、市長としての職務を遂行できましたのも、市民の皆さまの大きな支えと、市議会の皆さまなどのご指導とご協力、そして市職員の支援のたまものと、心から感謝の意を表する次第であります。

この八カ月間を振り返ってみますと、国政においては、昨年七月の参議院選挙の結果、衆・参議院の「ねじれ現象」が起こり、極めて不安定な国政の動きが生まれました。九月には安倍晋三総理大臣が突然退陣し、福田康夫新内閣がスタートしましたが、テロ特措法の延長や年金問題など難しい課題も山積しており、国政は依然として混乱いたしております。また一方では、地方分権や三位一体の改革などが進められていますが、中央と地方の格差は確実に広がっている状況であり、さらに追い打ちをかけるように原油価格が高騰し、市民生活にも、企業活動にも大きな影響を及ぼし始めました。

このような中、本市においては、昨年十月、親和銀行が福岡銀行を核とするふくおかフィナンシャルグループ（福岡市）の傘下に入り、再出発されることとなりました。また、歴史や伝統ある企業がやむなく民事再生や廃業の道をたどられたということも少なくありません。こうした佐世保の水問題を抜本的に解決するためには、私は石木ダム（東彼杵郡川棚町）の建設が最も有効であると確信いたしております。このような考えの下、私は当選した翌日から地権者の皆さまのもとへお伺いし、以降も月に一回は現地へ足を運び、個別訪問を続けているところであります。今後とも根気強く、誠心誠意お願いを続けてまいりたいと思っております。

本市の水源確保策として、新しいダムの建設など他の方法を勧める方もおられますが、財政的なことや水量の問題など総合的に勘案した場合、やはり石木ダムの建設が本市に最も適した施策であると判断いたしております。現在までの状況は、対象地域の百二十一世帯のうち九十八世帯（約81%）の地権者の皆さまにご理解をいただき、また、対象家屋六十七戸のうち五十四戸（約81%）の皆さまに家屋移転の契約をご承諾いただいているところであります。私たち佐世保市民の長年の悲願であるこの石木ダムの実現に向け、今後とも県、川棚町と一体となって、地域住民の皆さまとの対話を重ねながらご理解を求め、早期着工に全力を尽くしてまいりますので、市民の皆さまにはさらなるご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

## 前畑弾薬庫の移転・返還

昨年六月十五日、日米合同委員会の施設調整部会で、米海軍佐世保弾薬補給所（前畑弾薬庫）の針尾島弾薬集積所への移転・集約に伴う整備概要と、前畑弾薬庫跡地の日本側への返還にも触れた基本的な考えが発表されました。前畑弾薬庫の移転・返還は基地と公共施設・民間施設が混在している佐世保港にあって、跡地の有効活用と港のすみ分けの推進のため、本市が長年、国へ求めていたものであります。

七月には、江上地区など周辺住民の皆さまに対し、移転に関するご理解をいただくため、説明会を開催いたしました。説明会当初

りませんでした。しかしながら、造船業においては、世界的な海運好況の波に乗り、佐世保重工業が空前の活況を呈しました。その関連企業の業績も好転していることであり、大変喜ばしく思っております。さらに、昨年十月に開所した佐世保ニューテックパーク（崎岡町）内の佐世保情報産業プラザには、KDDIエポルバ（東京都）など新しい企業が立地いたしました。これまで続けてきた地道な誘致活動がようやく実を結び始めたように感じますが、今後とも企業誘致や地元企業の支援・育成などさまざまな施策に全力で取り組みながら、本市に芽生えてきたまちづくりの新しい変化を大切にはぐくんでいきたいと思っております。

## 渇水対策と石木ダム建設

本市では、昨夏からの少雨現象により、給水制限を実施せざるを得ない状況となりました。市民の皆さまには大変なご迷惑をおかけしておりますこと、市長として大変申し訳なく思っております。本市では貯水量の低下を少しでも防ぐため、佐々町や九州電力にご協力いただき佐々川からの取水を行い、また、県北ダム管理事務所のご協力による江永ダムからの取水や市民の方からの支援水など、できる限りの水源確保に努めているところであります。今後ともまとまった雨量が期待できない厳しい状況にありますが、市民の皆さまと一体となって、何とかこの局面を乗り越えてまいりたいと思っておりますので、皆さまにはなお一層のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

は、安全性に対する不安などから厳しい反対のご意見などを数多くいただきましたが、安全確保策や地域振興策などについて説明を重ね、また、地域の役員の皆さまには説明会の設定や意見の集約にご尽力をいただいた結果、一部の団体にご理解をいただくことができました。しかしながら、関係する一部の漁協については、制限水域における漁業補償申請手続きの問題もあり、今しばらく時間を要するものと考えております。

このように昨年は、本市の長年の懸案であったこの移転問題にようやく光が見え始め、さらに短期間で一定のご理解を得ることができ、大変感慨深いものを感じております。今後とも誠心誠意、地域や漁協の皆さまと協議を行い、併せて、安全確保策や地域振興策などについて防衛省と協議を進めてまいりたいと思っております。

## 明るく、豊かで、住みやすい佐世保を

本市ではこのほか、北松浦郡江迎町・鹿町町から申し入れがされている市町合併、観光の振興、農業・畜産業・水産業などの振興、ポータルネットワーク21地区の事業選定、中学校給食の実施、ごみ二段階有料制度の見直し、敬老パス券の市営バス・西肥バス共通化、さらには機構改革による行財政改革の推進など、市政の重要課題が山積している状況であります。このような中、本市のこうした課題に対応し、今後十年間のまちづくりの指針となる「佐世保市第六次総合計画」が、ことし四月からスタートいたします。今後はこの計画に基づき、また、市民の市民による市民のための政治、いわゆる「市民第一主義」を基本理念として、力いっぱい、元気いっぱい市政を推進し、明るく、豊かで、住みやすい佐世保を、市民の皆さまと一体となつてつくってまいりますので、皆さまにはさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆さまにとりまして、本年が良い年でありますよう、心から祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。